

環境をテーマにした地域づくり

地域全体で取り組む環境活動 ―入佐駐在区―

熊本県矢部町入佐駐在区 矢津田 正治

入佐駐在区のある矢部町

入佐駐在区（「駐在区」とは、矢部町が行政の連絡機関として大字を単位として設置した区域のこと）は九州のほぼ中央に位置する熊本県の矢部町にあります。矢部町は面積が約296km²、人口約13,000人で、阿蘇外輪山のすそ野に広がる自然豊かな町です。基幹産業は農林業で、有機米、高冷地野菜、果樹、畜産など付加価値の高い農産物の生産を進めています。

矢部町には世界に類例のない水路橋、国指定重要文化財の「通潤橋」があります。またロサンゼルスオリンピックの金メダリスト、柔道の山下泰裕選手の故郷でもあります。

環境保全活動のきっかけ 「入佐鶴の舞ホタルを育てる会」

通潤橋がまたぐ川の上流約3kmのところに入佐駐在区はあります。約80戸の行政区において、環境保全活動を基本とした様々な地域づくりを行っています。

入佐駐在区は中世の豪族「阿蘇氏」の家臣団が居住し現在に至っていますが、その昔、幾度もの合戦で討ち死にした阿蘇家の家臣たちの魂が毎年夏になると、ホタルになって帰ってくるという言い伝えがありました。地域住民は毎年ホタルの乱舞を心待ちにしていたのですが、近年の土地改良事業、河川改修事業によるホタルの生育環境の悪化、さらには生活の利便性の向上による水質の汚濁によりホタルの数がめっきり少なくなっていました。

そこで、昭和63年に地区の役員や老人会、長男会などで「川を汚染している生活雑排水を減らそう、地元の川にホタルを呼び戻そう」という気運のもとに「入佐鶴の舞ホタルを育てる会」を当時老人会長であった故高宮正明氏が先頭に



写真1 通潤橋

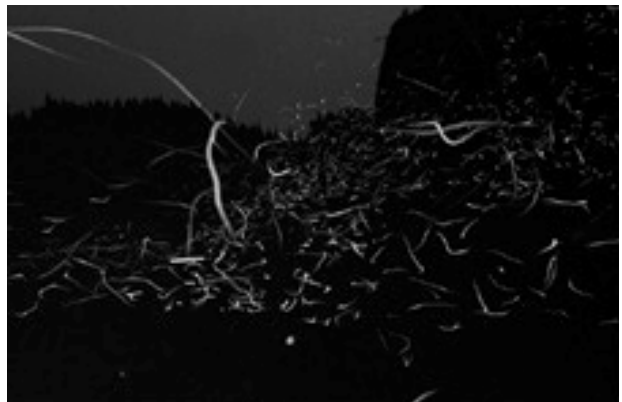


写真2 入佐地区の河川に乱舞するゲンジボタル

立ち、ホタル飼育の先進地視察・研修や県の指導を仰ぎながら、難しいといわれる自然ふ化を行うことからスタートしました。水路には餌になる「カワニナ」を放流し、水面から10cmの高さに竹を渡し、その上にミズゴケに産卵させたふ化箱を置き、かやで覆った状態で20日間会員が毎日交代で乾燥しないように水をかけました。その甲斐あってか、3年後には幼虫の増産に成功し、ふ化場の整備も行ったことから、現在では毎年約3万匹のホタルが乱舞し、毎年ホタル祭りを開催するまでとなりました。

この「入佐鶴の舞ホタルを育てる会」の活動がきっかけとなり、これ以降の環境保全の取り

環境をテーマにした地域づくり 地域全体で取り組む環境活動 ー入佐駐在区ー

熊本県矢部町入佐駐在区 矢津田 正治

組みにまで発展していったと言えます。

下流にきれいな水を流そう

矢部町では合併処理浄化槽を集落単位に整備する場合、その設置者に対して国の補助制度に町独自の補助を加えた制度を設けています。入佐駐在区では住民間で設置の合意をとりまとめ、この事業に地区全体でいち早く取り組みました。

当初は下水を集合処理する「農業集落排水事業（農水省所管）」の利用も考えましたが、維持管理の点から、合併処理浄化槽の集落ぐるみでの設置を選択しました。開始から3年の間に約9割以上の世帯が設置し、この効果として水辺で遊ぶ子ども達が増えてきました。また、その波及効果として上流域でも合併処理浄化槽の集落単位での取り組みが進んでおり、流域全体での環境に対する意識向上に影響を与えた大きな取り組みであったと思われます。合併処理浄化槽の設置には多大な個人負担が伴うことから、地区全体の理解を得るためには相当の期間を要しましたが、地区住民の環境保全に対する意識の高さが事業を推進させる大きな支えになりました。

手づくり公園の整備

入佐駐在区にある旧公民館跡地の利用について、数年間地元で検討を重ねていた結果、親水公園をつくらうという提案が持ち上がりました。

平成10年度、自治総合センターの宝くじの益金による助成金を基に住民自らの手作り（設計から施工まで）による親水公園を整備しました。この公園は「ふれあい公園 杜のいづみ」と称し、公園内には水を意識させる水車を設置、また自然の石を利用した水路や枕木を利用した防護柵など、子どもから高齢者まで親しめる、や



写真3 ふれあい公園 杜のいづみ

さしいつくりとなっており、地域住民の新しいふれあいの場となっています。特徴として「水車」には耐久性の強い松を、水車を回す水は湧水を利用するなど、公園のメインの施設となっています。

この公園のすぐ近くには800余年もの間地元で祀られている神社があり、この地区の住民達の心のよりどころとして、また地域活動の拠点として大いに利用されてきました。「杜のいづみ」という名の由来は、この「鎮守の杜」から来ています。

地区をあげて自然環境保全型農業への取り組み

矢部町は第1回目の全国有機農業大会が開催された場所でもあります。矢部町は典型的な中山間地であるため、冬は厳しく冷え込み、夏は涼しいという気候が特徴で、年間を通して比較的涼しいので害虫の発生が少なく、虫が大敵の有機農業には大変適した土地であります。

アイガモ農法やコイ農法といった有機農業で収穫される作物の特徴は、安全性と食味感、そして付加価値が高いことです。また「顔が見える農業」という面からも消費者ニーズは日々高



写真4 環境保全型農業研修

まっています。

入佐駐在区では、地区の全農家にこの「自然環境保全型農業」が普及するよう呼びかけを行っており、今後は町全体にまで広げていこうとしています。

各種イベントの開催

現在、入佐駐在区では毎年ファミリー釣り大会を開催しており、例年300人～400人の参加者を町内はもとより、県内外から迎えています。地区内コミュニティ醸成はもちろんのこと、来場者との交流による地域づくりに取り組んでいます。

まとめ

入佐駐在区の住民は「水」の尊さを認識し、上流域に住む自分たちが、できるだけきれいな水を下流へ送りだしてやろうという意識とともに環境保全活動を行っています。そのためか、合併処理浄化槽の集落ぐるみの設置は、町が推進している合併処理浄化槽設置整備事業のステップアップのきっかけとなり、同じ河川流域での集合整備など町全体への広がりへと繋がっています。

またその他のイベントや取り組みも他の地区への刺激となり、町全体の水環境保全への意識を向上させており、入佐駐在区の今後の取り組みに期待が寄せられています。

今後の展望

- 継続的なホタルの里づくり、ファミリー釣り大会等のイベントの開催
- 地区内の河川の「フィッシングパーク」としての住民自らの手作りによる整備
- 自然環境保全型農業の地区全域への普及
- 環境保全活動を基本とした地区内外との交流活動

受賞歴：

- 入佐駐在区：
熊本農村景観コンクール美しき村賞（H5.2.1）
県知事賞
- 入佐鶴の舞ホタルを育てる会：
水環境賞（H8.6.13）環境庁水質保全局長賞
熊本ホタルの里100選（H2.8.1）
肥後の水資源愛護賞（H3.8.1）県知事、
熊本日々新聞、肥後銀行
- ふれあい公園 杜のいづみ：
手づくり郷土賞（H11.7.12）建設省表彰